

取扱説明書

P-100 シリーズ

P型1級受信機

NBP103AEA□□・NBP103FKA□□(□□は回線数)

- このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。**取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。**
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

取り扱いについてのご注意

- 平常時には次のことを守ってください。受信機の取り扱いを誤ると火災時に正しく動作せず、避難や消火活動が大幅に遅れるおそれがあります。
- ベル(地区音響)一時停止スイッチを押さない。
- 受信機を地区音響強制停止・音響強制停止状態にしない。
- 電源スイッチや電池を切らない。
- 正常な監視状態にあるか確認する。(平常時の受信機の状態を参照)
- 警報が鳴ったら、まず現場を確認してください。

火災の場合	<ul style="list-style-type: none"> ●119番などに通報する。 ●避難誘導および、可能であれば初期消火をする。
火災でない場合	<ul style="list-style-type: none"> ●発生原因がわかれば取り除く。 ●発生原因不明のときは点検契約店に連絡し、再発防止を施す。

受信機の扉を開けるときのご注意

180°以上、扉を開けると扉の変形や他の物品を破損するおそれがあるので注意してください。

ご使用前に

- この設備は、火災感知器などからの信号を受けて火災の発生を検知する働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災などによる損害については、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
 - この設備は皆様の生命・財産を火災から守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
 - この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検を行ってください。
- (定期点検は、施主様と施工店または点検契約店でご契約ください。)

安全上のご注意

必ずお守りください

警告	<p>分解禁止</p> <p>機器を分解したり、修理・改造しない。故障の原因となります。</p> <p>禁止</p> <p>保守・点検以外でベル(地区音響)一時停止スイッチを押さない。(スイッチ内のランプ・スイッチ注意灯が点滅状態)火災時、すぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。</p> <p>防火管理者および消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れない。感電・故障の原因となります。</p> <p>ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけない。感電・故障の原因となります。</p> <p>感知器は絶対に取りはずさない。出火時に火災発見ができません。</p> <p>点検用スイッチカバー内にあるスイッチは操作しない。(点検資格者、消防設備士が操作するところです。)</p>
-----------	---

注意

必ず守る	<p>受信機のスイッチなどが正常な監視状態にあるか確認する。正常な監視状態でないと火災時に正しく動作しません。</p> <p>点検用スイッチカバーは必ず閉じる。引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。</p>
-------------	--

(予備電源(ニカド電池)取り扱い上のご注意)

注意

禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●電池は絶対に分解しない。電解液は強アルカリ性ですので、皮膚や衣類をいためたりします。 ●交換した電池は、火中に投入しない。電池が破裂する場合があり、危険です。電池はリサイクルに協力してください。
必ず守る	<p>コネクタは極性を守って正しく差し込む。逆に差し込むと電池のふくれや破裂の危険性があります。</p>

施工説明書別添付 保管用 屋内専用

ご使用になる皆様へ

露出：品番 NBP103AEA□□ (□□は回線数)

埋込：品番 NBP103FKA□□ (□□は回線数)

こんなときは

- 下記のような場合、消防法に適合しなくなったり、この設備が正常に機能しなくなるおそれがありますので、定期点検の時期まで待たずに、点検契約店にご連絡ください。

増改築 ●増築や改装をしたとき 	修繕 ●建物を修繕したとき 	塗りかえ ●天井や壁を塗りかえたとき
設備工事 ●設備の工事をしたとき 	電気・ガス・水道工事 ●電気・ガス・水道工事をしたとき 	天災被害 ●台風・雷・地震などの被害を受けたとき

お手入れ方法

- 表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。
- ふだんのおそうじは、やわらかい布でふき取ってください。
- 汚れが目立つときは、中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。

注意 ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。



定期点検

- 防災設備は、設置後の保守点検・維持管理がともなっており、はじめて正常な機能を発揮する商品です。施工店または点検契約店と「点検契約」を結んでください。

点検は法律で義務づけられています。



- 消防関係法令では、防火対象物の関係者(建物の所有者、管理者または占有者)は、定期点検の実施およびその結果を報告するように定められています。
- 点検の結果は維持台帳に記録し、定められた期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。

■消防法施行規則第31条の6

- 点検は、消防用設備などの種類および点検内容により1年以内で、消防庁長官が定める期間ごとに行う。
- 点検を行った結果は、維持台帳に記録し、消防機関へ報告を行わなければならない。

■点検

対象の設備	点検の内容および方法	点検の期間
自動火災報知設備	機器点検	6ヶ月に1回
配線	総合点検	1年に1回

■報告

特定防火対象物の場合	1年に1回
特定防火対象物以外の場合	3年に1回

点検には資格が必要です



- 定期点検は、国が定めた資格者(消防設備点検資格者または消防設備士)が行うよう、法令で決められています。
- 消防法第17条の3の3
- 消防用設備の点検は、消防設備士または総務省令で定める資格者に行わせなければならない。

「専門知識を有する会社」と点検契約をおすすめします



- 日本ドライケミカル製品取扱店と「点検契約」を結び、専門の知識・技術を持つ資格者が定期的に訪問し、責任を持って防災設備の点検をいたします。防災設備の正常な機能を維持するために、「点検契約」を結ばれることをおすすめします。

日常点検

注意

- 必ず守る** 日常、次の点検を行う。緊急時の操作に支障をきたしたり、不動作、作動遅れ、誤動作の原因となります。

受信機	<ul style="list-style-type: none"> ●「平常時の受信機の状態」に保たれているか? ●近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか?
感知器	<ul style="list-style-type: none"> ●変形、割れなどがないか? ●ペンキなどで塗装されていないか? ●ビニールテープなどが貼り付けられていないか? ●煙感知器の場合、クモの巣・ホコリなどがついていないか? ●熱感知器の場合、下にストーブなどの熱源が置かれていないか? ●火災の感知を妨げる障害物がないか? ●下に多量に煙の発するものを使用していないか? ●空気が切れたり、つぶれたりしていないか?
発信機	<ul style="list-style-type: none"> ●変形、損傷などがないか? ●近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか?
表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ●ランプが消えていないか? ●カバーの割れ、亀裂はないか?
地区ベル	<ul style="list-style-type: none"> ●変形、損傷などがないか?

機器に異常が見つかった場合は、点検契約店へご連絡ください。

平常時の受信機の状態

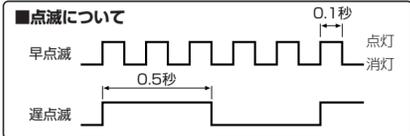
- 火災が発生したとき、受信機が正常に動作するよう、平常時は下記の状態であることをお確かめください。

- 平常時において下記の状態とならない場合、「異常時の点検・処置」(裏面)の内容を確認のうえ、点検契約店にご連絡ください。
- 交流電源灯……点灯(緑) ■警戒中灯……点灯(緑) 左記以外はすべて消灯

各部のなまえとはたらき

地区灯(赤) ●「点灯」で火災発生 ●「早点滅」で火災試験の回線選択時 ●「遅点滅」で感知器配線の断線	交流電源灯(緑) (平常時点灯していること) 交流電源が入っていることを、点灯で知らせます。
トラブル灯(赤) 受信機または配線に異常が起きたとき、点滅で知らせます。点滅時は、施工店または点検契約店へ連絡してください。(異常の内容は液晶表示部で確認できます。)	スイッチ注意灯(赤) いずれかのスイッチが通常の状態でないとき、点滅で知らせます。
音響強制停止灯(赤) ※1 主音響の「強制停止」状態が作動していると点滅で知らせます。	地区音響強制停止灯(赤) ※1 地区音響の「強制停止」状態が作動していると点滅で知らせます。
非常放送中灯(赤) 非常放送設備のマイクスイッチを作動させると点滅で知らせます。	

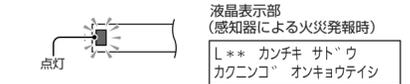
※1：点検時音響鳴動動作中は早点滅に変わります。



受信機が警報した場合

- 主音響が鳴ったら、次の手順で操作してください。

- 1 地区灯(赤)の点灯位置によってどこで火災が起きているか確かめる。



- 発信機の押ボタンが押されて発報している場合は、発信機灯が点滅します。
- 発信機灯が消灯している場合は、感知器が作動したことによる発報です。

- 2 受信機音響停止スイッチを押し、主音響を止める。(地区音響は鳴動しています。)

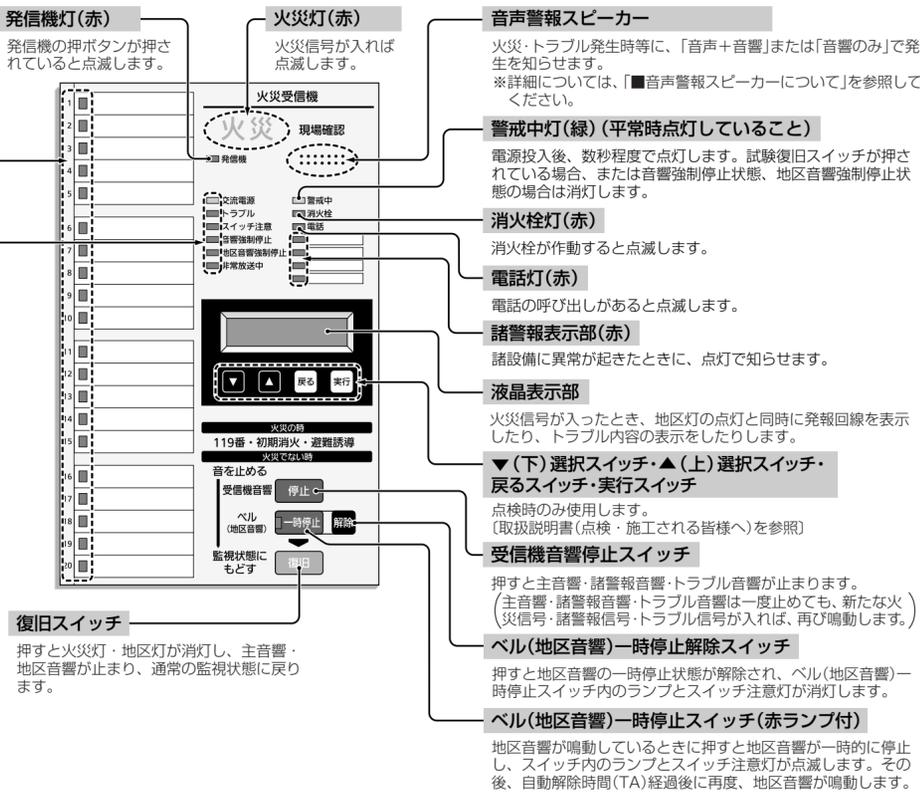
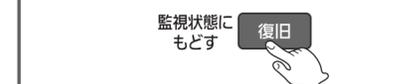


- 3 出火場所へ行き状況を確認する。

火災の場合

- 4 119番に通報する。その後、可能であれば避難誘導や初期消火など適切な処置をする。

- 5 火災鎮火後、復旧スイッチを押して通常の監視状態に戻す。



火災でない場合

- 4 ベル(地区音響)一時停止スイッチを押して、地区音響を止める。

- スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が点滅します。
- スイッチ内のランプとスイッチ注意灯は、自動解除時間(TA)(約2分間・約4分間・約6分間・約8分間)経過後に消灯し、地区音響が再び鳴動します。(現在設定されている時間を確認する場合、または設定時間を変更する場合は、施工店・点検契約店にご相談ください。)



- 5 地区灯の点灯している場所で、次の状況を確認処置する。

- 感知器が作動していないか?
 ●確認灯付感知器の場合、作動した感知器の確認灯が点灯します。
 処置：作動した感知器から煙または熱を取り去る。
- 煙感知器の場合、水蒸気・ホコリ・調理の煙などでも作動することがあります。
- 熱感知器の場合、ストーブなど暖房の熱が直接当たったり、感熱部が変化すると作動することもあります。
- 発信機の押ボタンが押されたままになっていないか?
 ●発信機灯が点滅しています。
 処置：発信機の押ボタンを元に戻す。

- 6 復旧スイッチを押し、地区灯と火災灯、液晶表示部が消えるか確かめる。

- ベル(地区音響)一時停止スイッチ内のランプとスイッチ注意灯が消えます。
- 感知器の確認灯も消えます。
 ※地区灯・火災灯が消えない場合はもう一度4⑤⑥の手順を繰り返してください。
- 復旧スイッチを押すと、地区灯・火災灯が消えない場合や処置できない場合は、点検契約店へご連絡ください。

音声警報スピーカについて

受信機の状態	音響	音声(※1)
火災警報(第1報) 感知器作動音響	ビービー	〇〇階で(△△回線で)(※2) 火災感知器が作動しました。現場を確認してください。(女性の声)
火災警報(第2報または発信機発報) 火災確定音	ビービー	火事です。火事です。〇〇階で(△△回線で)(※2) 火災が発生しました。現場を確認してください。(男性の声)
トラブル時	ビー	トラブルが発生しました。(女性の声)
諸警報入力	ブーブーブー(※3)	—
電話呼出	ブルルルル	—
蓄積開始時(1回のみ)(※4)	ブーブー	—

※1 設定により、音声をなくして音響のみを鳴動させる設定もできます。
 ※2 設定により、発報階・発報回線・場所なしの切替設定ができます。
 ※3 設定により、鳴動させない設定ができます。(出荷時設定「鳴動する」)
 ※4 設定により、鳴動させる設定ができます。(出荷時設定「鳴動しない」)
 各種設定については施工店・点検契約店にご相談ください。

異常時の点検・処置

警告



この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。異常を放置すると火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

- 以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。正常に戻らなかった場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。

状態	点検	処置
交流電源灯が消灯している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。
警戒中灯が消灯し、操作部のすべての表示灯が点灯している。	煙感知器の近くに調理の煙・水蒸気・ホコリなどが滞留していないか？ 熱感知器の近くにストーブなど暖房の熱が直接当たっていないか？ 発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？ どこにも火事や煙の発生がないことを十分確認したか？	煙・水蒸気などを取り除き、復旧スイッチを押す。 熱などを取り除き、復旧スイッチを押す。 発信機の押ボタンを元に戻し、復旧スイッチを押す。
火災でないのに警報動作をする。	どこにも火事や煙の発生がないことを十分確認したか？	地区音響を再鳴動させたくない場合は、地区音響強制停止にする。(施工店・点検契約店に連絡する。)
スイッチ注意灯が点滅している。	ベル(地区音響)一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していないか？	●ベル(地区音響)一時停止解除スイッチを押す。 ●ベル(地区音響)一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していない場合は、施工店または点検契約店に連絡する。
諸警報表示部が点灯し、諸警報音響もしくはトラブル音響が鳴動している。	諸警報表示部の点灯位置によって、異常内容を確認する。	異常が起きた設備の状況を確認し、施工店または点検契約店へ連絡する。



スイッチ注意灯・地区音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯し、約1分間隔でピッチが鳴ります。この状態のままでは、正常に警報動作を行うことができません。必ず施工店または点検契約店に連絡してください。

- 以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。

状態	点検	処置
交流電源灯が消灯している。	受信機内の交流電源スイッチが「切(OFF)」側になっていないか？ AC100V配線が断線していないか？ 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか？	受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 配線を直す。 受信機内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
警戒中灯が消灯している。	音響強制停止灯(赤)が点滅していないか？ 地区音響強制停止灯(赤)が点滅していないか？ 試験復旧灯(赤)が点滅していないか？	音響強制停止状態を解除する。 地区音響強制停止状態を解除する。 試験復旧スイッチを押す。
火災でないのに警報動作している。	感知器配線が短絡または絶縁劣化していないか？ 火災以外の原因はないか？	配線を直す、感知器を確認する。 日常点検をする。
火災復旧状態で復旧スイッチを押しても復旧しない。	感知器または発信機が作動状態になっていないか？ 発信機灯が点滅していないか？	●感知器から熱または煙を取り除く。 ●発信機の押ボタンを元に戻す。 発信機の押ボタンを元に戻す。
非常放送中灯が点滅している。	非常放送地区音響停止端子(EB+, EB-)の配線が短絡していないか？	配線を直す。
操作表示部の警戒中灯以外のすべてのランプが点灯し、液晶表示部に「トラブルドウ サフノウ」が表示している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？ 受信機内の交流電源スイッチが「切(OFF)」側になっていないか？ 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか？ 停電などにより交流電源が切れていないか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。 受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 受信機内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。 停電状態が復電するまで待つ。
トラブル灯が点滅、トラブル音響が鳴動し、液晶表示部に「トラブル***」が表示している。	トラブル確認操作により、トラブル内容・発生場所を確認する。(トラブル確認操作については取扱説明書(点検・施工される皆様へ)の「トラブル確認の方法」を参照してください。)	「トラブル確認の方法」ページの該当項目の点検・処置を行う。
発信機の押ボタンを押しても該当階の非常放送のメッセージが流れない。	該当回線の階が正しく設定されているか？ 配線が間違っていないか？	感知器回線の取付階設定(地区音響鳴動設定)を確認する。詳しくは設定マニュアルを参照してください。 配線を直す。

連絡先一覧表

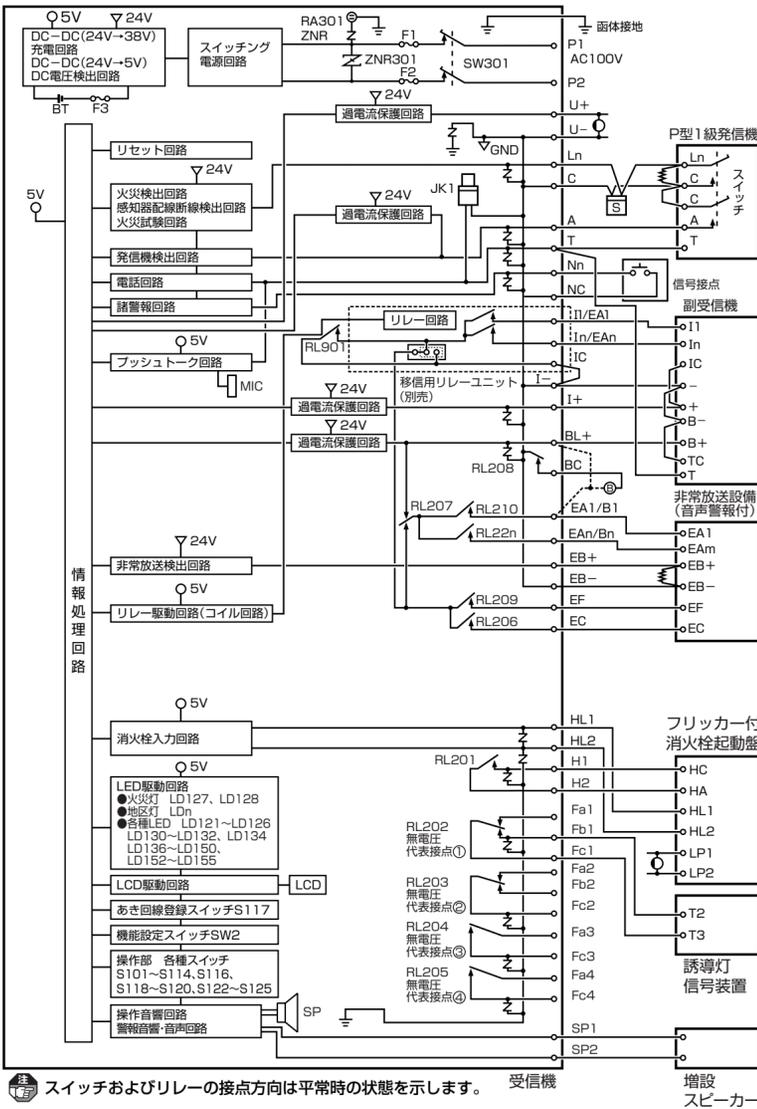
施工店や点検契約店など、記入しておくとう便利です。

点検契約店	TEL
施工店	TEL
設備竣工	年 月 日

MEMO

内部回路図

■内部回路図



スイッチおよびリレーの接点方向は平常時の状態を示します。

定格・仕様

国家検定型式番号	受第26～28号					
常用電源	AC100V 50/60Hz (P1-P2)	回線数	5	10	15	20
		消費電力：警戒時最大 消費電力：警報時最大	11VA 40VA	12VA 41VA		
予備電源	5・10回線 15・20回線	DC 24V 450mAh DC 24V 600mAh	ニッケル・カドミウム蓄電池 (充電方式：トリクル充電 充電電流10.0mA) (受託評価適合品)			
地区音響装置 ※1	DC 24V 300mA (BL+・BC) 非常放送時、地区音響停止機能 (EB+・EB-)					
非常放送連動 ※2	無電圧接点(EC-EA1・EAAn, EF) 接点容量DC 30V 1Aまで					
表示灯	DC 24V 420mA (U+・U-)					
副受信機電源	DC 24V 150mA (I+・I-)					
感知器電圧・電流	DC 24V 短絡電流27.5mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下 (C-L1…Ln)					
終端抵抗器	10kΩ (4.3kΩ・5.1kΩ・20kΩも対応可能) ※3					
感知器接続数 ※4	●当社熱感知器(電子式自己保持型)(A) : 1回線当たり80コまで(20コ) ●当社煙感知器(NSS207)(B) : 1回線当たり30コまで(7コ) ●当社煙感知器(HSS208)(C) : 1回線当たり20コまで(5コ) ●当社光電式分離型感知器(D) : 1回線当たり1セットまで(接続不可) ●当社炎感知器(NSF904)(E) : 1回線当たり4コまで(1コ) ●当社熱電対検出器(F) : 1回線当たり4コまで(1コ)					
	●()内の接続数は、終端抵抗器設定が「20k」時の接続回数になります。 ●上記感知器が混在する場合は、下記の方程式により接続数を決めてください。 ・「5.1k/10k」設定時： $A + \frac{8}{3}B + 4C + 20(E+F) \leq 80$ 、 $D = 1$ ・「20k」設定時： $A + \frac{8}{3}B + 4C \leq 20$					

主音響装置	警報音(断続音)+音声メッセージ DC318mA(DC5V)・85dB/m以上
副受信機 ※5	無電圧接点出力(1C-I1…In) 接点容量DC 30V 1Aまで
消火栓始動	無電圧接点(H1-H2)接点容量DC 30V 1Aまで 始動確認灯24V 5mA(HL1-HL2)
代表移信接点 ※6	無電圧接点4系統(Fc1-Fa1・Fb1)(Fc2-Fa2・Fb2)(Fc3-Fa3) (Fc4-Fa4) 接点容量DC 30V 1Aまで
蓄積時間	公称蓄積時間60秒(煙感知器…60秒 熱感知器…10秒)
諸警報電圧・電流	DC24V 短絡電流5mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下 (NC-N1…N4)
増設スピーカー ※7	光る増設スピーカー…3台/増設スピーカー…1台 配線長 φ0.9…50m以下 φ1.2…100m以下
使用周囲温度	0℃～+40℃
質量	露出型…7kg/埋込型…8kg

- ※1 EB+、EB-端子の非常放送側の接続端子に終端抵抗器10kΩを接続してください。
- ※2 EA1…EAAn端子は、地区音響の区分鳴動時にも使用できます。EC-EF接点が閉じるのは、発信機発報スプリングクロー回線の発報、または第2報目の感知器発報の場合です。一斉鳴動移行時間(TC)による動作では、EC-EF接点は閉じません。
- ※3 20kΩの終端抵抗器が接続されている場合、終端抵抗器設定を「20k」にし、それ以外は「5.1k/10k」に設定してください。また、20kΩとそれ以外(10kΩ・5.1kΩ・4.3kΩ)との混在は不可となります。
- ※4 熱感知器(接点式熱感知器・差動式分布型感知器(空気管式))は1回線当たりの接続数の制限はありません。
- ※5 副受信機と接続する場合は、P型1級用副受信機内器(NY1403FKB□□□)(□□は回線数)(別売)に同梱されている「移信用リレーユニット」を受信機に取り付けらうえて、受信機と副受信機間の接続を行ってください。
- ※6 代表移信接点は、設定により用途を変更することができます。出荷時はすべて火災代表設定になっています。(詳しくは設定マニュアルを参照してください。)
- ※7 増設スピーカーは火災警報音響、トラブル音響、作動音響が鳴動します。(一斉試験、点検時音響は鳴動しません。)増設スピーカーの鳴動は受信機の主音響鳴動と同じタイミングで警報内容を鳴動します。(鳴動停止も同じタイミングです。)光る増設スピーカーの場合は、鳴動と同時にフラッシュランプが点滅します。(点滅のみ、最大約2分間で消灯します。)

取扱説明書

P-100シリーズ

P型1級受信機

NBP103AEA□□・NBP103FKA□□(□□は回線数)

- このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に作業してください。
- 取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず作業された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

安全上のご注意 ■必ずお守りください

警告	
	絶対に分解したり、修理・改造しない。感電の原因となります。
	電池は必ず接続する。電池が接続されていないと停電時に機能しません。試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻す。戻さないと火災時、正常な火災警報動作をしません。
	保守・点検以外で受信機の地区音響を「強制停止」状態にしない。(スイッチ注意灯・地区音響強制停止灯が点滅状態) 火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。
	ぬれた手で受信機をさわったり、水をついたり、水をかかない。感電・故障の原因となります。
	感知器は絶対に取りはずさない。出火時に火災発見ができません。
	電池は火に投入したり、ショートさせない。爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。

注意	
	点検などで動作させる場合は、運動している設備の内容を十分確認して操作する。不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。
	点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じる。引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。

交流電源スイッチを「入(ON)」側にするときのご注意

非常放送連動・移信連動・消火栓連動は、すべて停止解除(運動可能)状態で機能します。接続されている機器が運動しないように注意してください。

受信機音響の強制停止のしかた

- 点検時、受信機から主音響・トラブル音響・諸警報音響を鳴動させない場合に設定します。
- 受信機の音響を止める場合は、「点検スイッチ」を1秒以上押している間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が点灯します。)(地区音響強制停止時の約1分ごとのビップ音のような音は鳴りません。)

解除する場合

- 「点検スイッチ」を1秒以上押している間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。
- (スイッチ注意灯と音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)

地区音響の強制停止のしかた

- 点検時、地区音響を鳴動させない場合に設定します。
- 地区音響を止める場合は、「点検スイッチ」を1秒以上押している間に「ベル(地区音響)一時停止スイッチ」を押してください。
- (スイッチ注意灯と地区音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が点灯します。)
- 約1分間隔でビップ音が鳴ります。

解除する場合

- 「点検スイッチ」を1秒以上押している間に「ベル(地区音響)一時停止解除スイッチ」を押してください。
- (スイッチ注意灯と地区音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)

施工説明書別添付 保管用 屋内専用

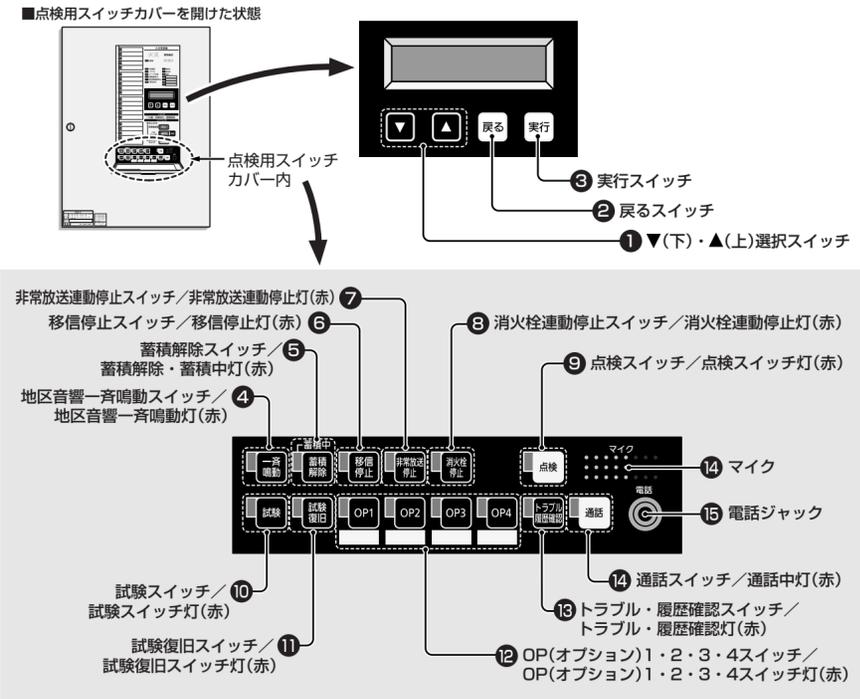
点検・施工される皆様へ

露出：品番 NBP103AEA□□ (□□は回線数)

埋込：品番 NBP103FKA□□ (□□は回線数)



各部のなまえとはたらき



- ▼(下)・▲(上)選択スイッチ**
表示画面内容を切り替えるとき、または火災試験時の回線選択時に使用します。
- 戻るスイッチ**
表示画面内容を1つ前の階層に戻すときに使用します。
- 実行スイッチ**
表示画面内容を実行するときに使用します。
- 地区音響一斉鳴動スイッチ／地区音響一斉鳴動灯(赤)**
地区音響装置(BL+・Bn-BC)が一斉鳴動出力を行います。(地区音響一斉鳴動灯／スイッチ注意灯……点滅)もう一度押すと、出力が復旧します。(地区音響一斉鳴動灯／スイッチ注意灯……消灯)
- 蓄積解除スイッチ／蓄積解除・蓄積中灯(赤)**
押すと蓄積機能が解除され、火災信号による蓄積動作中に点灯します。(蓄積解除・蓄積中灯／スイッチ注意灯……点滅)もう一度押すと、蓄積機能が有効になります。(蓄積解除・蓄積中灯／スイッチ注意灯……消灯)
- 移信停止スイッチ／移信停止灯(赤)**
●押すと代表移信接点(Fc1-Fa1、Fc2-Fa2、Fc3-Fa3、Fc4-Fa4)の出力が「停止」状態となり火災信号が入っても誘導灯などは作動しません。(移信停止灯／スイッチ注意灯……点滅)もう一度押すと、停止解除になります。(移信停止灯／スイッチ注意灯……消灯)
●回線別移信(In-Ic)の出力については、設定マニュアル(回線別移信停止設定)を参照してください。
- 非常放送連動停止スイッチ／非常放送連動停止灯(赤)**
押すと感知器が作動しても接続された非常放送設備は運動しません。非常放送設備への無電圧接点(EA1…EAn、EF-EC)の信号出力が「停止」状態となり、火災信号が入っても非常放送の音声警報は鳴動しません。(非常放送連動停止灯／スイッチ注意灯……点滅)もう一度押すと、停止解除になります。(非常放送連動停止灯／スイッチ注意灯……消灯)
- 消火栓連動停止スイッチ／消火栓連動停止灯(赤)**
押すと発信機を押しても消火栓は運動しません。(消火栓連動停止灯／スイッチ注意灯……点滅)もう一度押すと、停止解除になります。(消火栓連動停止灯／スイッチ注意灯……消灯)
- 点検スイッチ／点検スイッチ灯(赤)**
受信機音響強制停止、地区音響強制停止を行うときに使用します。点検スイッチを1秒以上押したときに点滅(スイッチ有効状態)します。点検スイッチを1秒以上押した場合は、点検スイッチを放した後も点検状態を継続します。(10秒点滅継続)
- 試験スイッチ／試験スイッチ灯(赤)**
一斉試験、火災試験、電池試験を行うときに使用します。押すと液晶表示部に試験メニューを表示し、試験スイッチ灯とスイッチ注意灯が点滅します。もう一度押すと、液晶表示部、試験スイッチ灯とスイッチ注意灯が消灯します。
- 試験復旧スイッチ／試験復旧スイッチ灯(赤)**
押すと感知器の作動試験時に、受信機作動後約6秒ごとに感知器などを強制的に自動復旧させます。(試験復旧スイッチ灯／スイッチ注意灯……点滅/警戒中灯……消灯)もう一度押すと、試験復旧が解除されます。(試験復旧スイッチ灯／スイッチ注意灯……点灯)
- OP(オプション)1・2・3・4スイッチ／OP(オプション)1・2・3・4スイッチ灯(赤)**
押すと設定された動作をします。各代表接点を運動停止や接点出力などに設定が可能です。(OPスイッチ灯／スイッチ注意灯……点滅) (詳しくは、設定マニュアルを参照してください。)もう一度押すと、元に戻ります。(OPスイッチ灯／スイッチ注意灯……消灯)
- トラブル・履歴確認スイッチ／トラブル・履歴確認灯(赤)**
トラブル確認、履歴確認を行うときに使用します。押すと液晶表示部に確認メニューを表示し、トラブル・履歴確認灯とスイッチ注意灯が点滅します。もう一度押すと、液晶表示部、トラブル・履歴確認灯とスイッチ注意灯が消灯します。
- 通話スイッチ／通話中灯(赤)／マイク**
電話機(別売)を使わずに発信機または副受信機の電話機(付属)と通話をするときに使用します。(「電話機(付属)の使い方」を参照)
- 電話ジャック**
電話機のプラグを差し込み、発信機または副受信機との通話に使用します。

機能設定(ソフト設定)の開始方法

- 電池を外し、電源スイッチ「切」にした状態から点検スイッチを押しながら電源投入することで機能設定(ソフト設定)が開始します。
- 交流電源灯・警戒中灯・トラブル灯・消火栓灯・スイッチ注意灯・電話灯が点滅します。

機能設定(ソフト設定)の終了方法

- 液晶表示部に右記内容が表示されるまで戻るスイッチを押す。
セッテイ シュリョウ ▲
ジッコウデ END
- 実行スイッチを押し、すべての設定内容を保存します。保存終了後、登録完了音(ビップビップ)が鳴り、受信機が再起動します。
- 本操作を行わないと、設定データは書き換わりません。

点検のしかた

点検する前に

警告

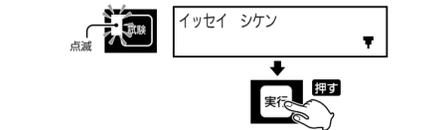
- 点検などで動作させる場合は、運動している設備の内容を十分確認して操作する。不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。
- 点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じる。引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。
- 試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻す。火災時、正常な火災警報動作をしません。

一斉試験の方法

- この試験は、1回線目から順次、自動的に受信機内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器、発信機などの機器を含めて、試験をしてください。
- 各試験で記載どおりに動作しない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 試験スイッチを押し、液晶表示部に「イッセイ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)

- 「火災表示試験」「使用回線表示試験」「ランプ表示試験」「蓄積時間測定試験」「タイマー設定時間確認」「メモリー試験」を順次、自動的にを行います。



火災表示試験

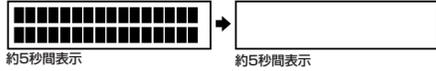
- 地区灯が回線ごとに順次点灯することを確認する。**
●順次点灯することにより火災灯が点滅し、主音響(音響のみ)が鳴動することを確認してください。
- 回線別設定を警報回線に設定している場合は、作動音響が鳴動することを確認してください。
- 地区音響の鳴動、代表移信の出力はしません。

使用回線表示試験

- 使用されている回線の地区灯だけが点灯することを確認する。(約10秒間)**

ランプ表示試験

- 火災灯、地区灯、操作部のすべてのランプが点灯することを確認する。(約10秒間)**
●液晶表示部は約5秒間、全面「■」表示、その後約5秒間「表示なし」になります。

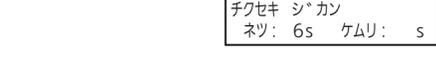


蓄積時間測定試験

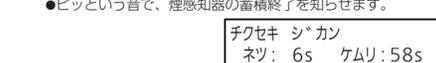
- 1 ビツという音で、熱感知器および煙感知器の蓄積開始を知らせます。**



- 2 5秒～10秒後**
●ビツという音で、熱感知器の蓄積終了を知らせます。



- 3 55秒～60秒後、液晶表示部に結果を5秒間表示します。**



(右上につづく)

機能設定(ソフト設定)の設定項目

(詳しい内容は、設定マニュアルを参照してください。)

基本設定項目	液晶表示部表示内容	設定項目	詳細設定項目
カイセン シュベツ	回線種別設定		イシン レントウ
カイセン セッテイ カイ	感知器回線の取付階設定(地区音響鳴動設定)		レントウ ティン
チクベル シカン	地区音響一時停止の自動解除時間(TA)・地区音響一斉鳴動移行時間(TC)設定		オンキョウ
タイヒョウ イシン	代表移信設定		チクセキ
OPスイッチ	オプションスイッチ設定		チクセキ カイシ オンキョウ
ケイホウ オンセイ	発報場所音声設定		シュウタンキ タイブ
ヒシヨウホウツウヘル	非常放送・地区音響切替設定		キホン セッテイヘ
ショウサイ セッテイヘ	詳細設定へ移行		リセット

タイマー設定時間確認

6 自動解除時間(TA)と一斉鳴動移行時間(TC)の設定を確認する。(約5秒間)

- 右図は地区音響自動解除時間(TA)の設定値が2分、地区音響一斉鳴動移行時間(TC)の設定値が4分の場合を示します。

メモリー試験

7 受信機内部で自動的にプログラムデータのチェックをする。

- 「メモリ シケン NG」と表示された場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
- 良い場合は、「メモリ シケン OK」と表示されます。

8 試験スイッチ再度を押し、平常時の監視状態に戻す。

- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯、液晶表示部が消灯します。

試験中に火災を受信した場合

自動的に試験状態を解除し、ただちに火災警報します。

液晶表示部は「イッセイ シケン」の表示に戻ります。(試験開始前の表示) 試験スイッチを再度押すことにより、火災の表示に切り替わります。

火災試験の方法

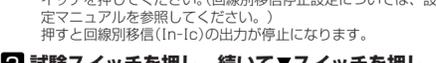
この試験は、受信機内の火災検知回路の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器、発信機などの機器を含めて、試験をしてください。

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 試験灯、この受信機と接続されている機器を運動させないようにする場合は、次の該当するスイッチを押す。(スイッチ注意灯が点滅します。)

- 火災代表移信をしないときは、「移信停止スイッチ」を押してください。(移信停止灯が点滅します。)
- 火災代表移信接点(Fc1-Fa1、Fb1)(Fc2-Fa2、Fb2)(Fc3-Fa3)(Fc4-Fa4)が運動しません。
- 消火栓連動をしないときは、「消火栓連動停止スイッチ」を押してください。(消火栓連動停止灯が点滅します。)
- 無電圧接点(H1-H2)が運動しません。
- 受信機の音響を鳴動させない場合は、受信機音響強制停止状態にしてください。(受信機音響強制停止灯が点滅します。)
- 地区音響を鳴動させない場合は、地区音響強制停止状態にしてください。(地区音響強制停止灯が点滅します。)
- BL+、B1…Bn-BCが運動しません。(約1分間隔でビップ音が鳴ります。)
- 非常放送連動をしないときは、「非常放送連動停止スイッチ」を押してください。(非常放送連動停止灯が点滅します。)
- 無電圧接点(EF、EA1…EAn-EO)が運動しません。
- 回線別移信をしないときは、回線別移信停止設定した該当のスイッチを押してください。(回線別移信停止設定については、設定マニュアルを参照してください。)
- 押すと回線別移信(In-Ic)の出力が停止になります。

2 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを押し、液晶表示部に「カサイ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。



- 液晶表示部下段に「カイセン [L01]」が表示され、該当の地区灯が早点滅します。

3 ▼▲スイッチを押し、火災試験を行う回線を選択する。

- 選択した回線の地区灯が早点滅します。

4 回線を選択した後、実行スイッチを押す。

- 1報目の火災試験のとき、蓄積解除・蓄積中灯(赤)が点灯しますので、この間(約7秒間)押し続けてください。(※2報目の火災試験からは実行スイッチを押すだけで5の動作に移行します。)

5 火災灯が点滅し、選択した回線の地区灯が点滅から点灯になる。

- 主音響および地区音響が鳴動します。(強制停止していない場合)

6 復旧スイッチを押して警報を止める。

7 試験スイッチを押すと液晶表示部と地区灯が消える。

- (回線選択状態のまま放置した場合でも約32分後に消えます。)

(右上につづく)

8 1で運動停止・音響停止させたスイッチを平常時の状態に戻す。

- (各スイッチ内のランプは消灯します。)

9 スイッチ注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻る。

試験中に火災を受信した場合

試験中の回線が火災を受信した場合、6の操作のあとに火災警報します。

●試験中以外の回線の地区灯が点灯した場合、その回線が火災発生可能性がありますので6の復旧操作後の「火災」表示で火災の確認を行ってください。

差動式分布型感知器(空気管式)の作動継続時間の測定方法

- 感知器が作動してから接点が開くまでの時間を測定する方法です。

テスターによる測定

- 点検用スイッチカバーを開けてください。
- 1 蓄積解除スイッチを押す。**
●蓄積解除・蓄積中灯、スイッチ注意灯が点滅します。
- 2 試験復旧解除状態にする。**
●試験復旧灯が消灯します。
- 3 地区音響強制停止状態にする。**
●地区音響強制停止灯が点滅します。(約1分間隔でビップ音が鳴ります。)



4 差動式分布型感知器の試験孔に空気注入試験器で規定の空気を注入する。

5 感知器のL-C端子間の電圧が0Vになっている時間を測定する。

6 復旧スイッチ押して、警報を止める。

7 蓄積解除スイッチを再度、押す。

8 地区音響強制停止状態を解除する。

9 スイッチ注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻る。

試験中に火災を受信した場合

試験中の回線が火災を受信した場合、6の操作のあとに火災警報します。

地区音響鳴動による測定(簡易測定方法)

- 点検用スイッチカバーを開けてください。

1 蓄積解除スイッチと試験復旧スイッチを押し、試験復旧状態にする。

2 地区音響強制停止状態が解除されているかを確認する。

3 差動式分布型感知器の試験孔に空気注入試験器で規定の空気を注入する。

- このときの地区音響鳴動開始から終了の時間を測定してください。ただし、測定中に自動復旧するため断続鳴動となります。

4 試験終了後、蓄積解除スイッチと試験復旧スイッチを再度、押す。

5 スイッチ注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻る。

試験中に火災を受信した場合

試験中の回線が火災を受信した場合、4の操作のあとに火災警報します。

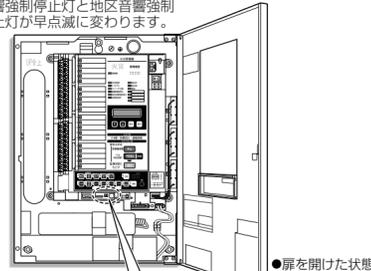
(裏面につづく)

点検のしかた(つづき)

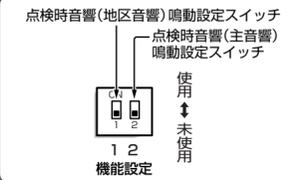
感知器・発信機の作動回線の確認方法

- 以下の試験は、扉を開けてください。

- 試験復旧スイッチを押す。**
 - 試験復旧スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。
- 受信機音響強制停止状態にする。**
 - 音響強制停止灯が点滅します。
- 地区音響強制停止状態にする。**
 - 地区音響強制停止灯が点滅します。
 - 約1分間隔でビップ音が鳴ります。
- 受信機内の機能設定スイッチの点検時音響(主音響・地区音響)スイッチを「使用」側にする。**(出荷時は「未使用」側で主音響・地区音響とも点検音響鳴動なし)
 - 音響強制停止灯と地区音響強制停止灯が早点滅に変わります。



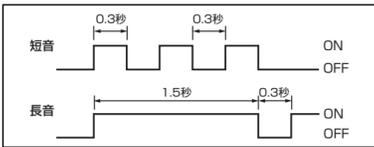
●扉を開けた状態



5 作動試験をしたい感知器・発信機を動作させる。

- 受信機が警報動作したとき主音響は回線を音声で知らせ、地区音響は、短音と長音を組み合わせて、回線の番号分鳴ります。

発報回線	点検音響(地区音響)	点検音響(主音響)
1回線	単音	1回線
2回線	単音・単音	2回線
3回線	単音・単音・単音	3回線
4回線	単音・単音・単音・単音	4回線
5回線	長音	5回線
6回線	長音・単音	6回線
⋮		
9回線	長音・単音・単音・単音・単音	9回線
10回線	長音・長音	10回線
⋮		
20回線	長音・長音・長音・長音	20回線



- 受信機音響、地区音響が強制停止状態でも点検時音響(主音響、地区音響)が出力されます。
- 複数の回線が警報したときは、先に警報信号を受信した回線の点検音響を出力させます。
- 点検時音響モード中は、地区音響の点検時音響は全回線動作に切り替わります。
- 点検時音響(主音響)鳴動設定スイッチが「使用」側であっても、音響強制停止灯が消灯している場合は、主音響が約6秒間動作します。
- 点検時音響(地区音響)鳴動設定スイッチが「使用」側であっても、地区音響強制停止灯が消灯している場合は、地区音響が約6秒間動作します。

6 試験終了後、受信機内の機能設定スイッチの点検時音響(主音響・地区音響)鳴動設定スイッチを「未使用」側にする。

- 「未使用」側にしないと点検時に主音響と地区音響が鳴動します。
- 音響強制停止灯と地区音響強制停止灯が点滅に変わります。

7 地区音響強制停止状態を解除する。

- 地区音響強制停止灯が消灯します。

8 受信機音響強制停止状態を解除する。

- 音響強制停止灯が消灯します。

9 試験復旧スイッチを再度押す。

- 試験復旧灯、スイッチ注意灯が消灯し、警戒中灯が点灯し平常時の監視状態に戻ります。

電池試験と電池の電圧測定方法

この試験は、受信機の予備電源として内蔵されている電池に異常がないかを調べるものです。電池電圧値を測定する場合は、下記の「電圧測定」をしてください。

電池試験

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

- 試験スイッチを押す、続いて▼スイッチを2回押し液晶表示部に「デンチ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。**(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)



- 自動的に5秒間電池試験を実行します。実行スイッチを押し続けることにより、連続して電池試験を実施することができます。(電池試験中は交流電源灯が消灯します。)
- 実行スイッチを5秒以上押し続けた場合は、実行スイッチを押すのをやめた時点で結果表示を行います。

- 試験結果が「良」の場合は、液晶表示部下側に「リヨウ **.*V」(**.*Vは電池電圧)が表示されます。**

「良」の場合	「不良」の場合
デンチ シケン ケッカ リヨウ **.*V	デンチ シケン ケッカ リョウ

- 液晶表示部の電池電圧は目安です。正確な電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。
- 「不良」の場合、電池を交換してください。(施工説明書を参照)

- 試験スイッチを再度押し、平常時の監視状態に戻す。**

- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯、液晶表示部が消灯します。

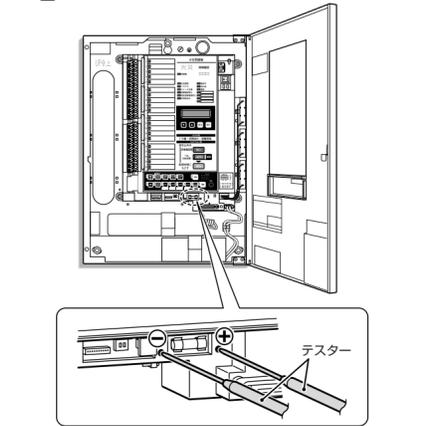
電圧測定

- 以下の試験は、扉を開けてください。

- 試験スイッチを押す、続いて▼スイッチを2回押し液晶表示部に「デンチ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。**(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)

- 実行スイッチを押す、液晶表示部に「デンチ シケン チュウ」を表示している間に、本体内の電池電圧の端子にテスターを当てて測定する。**(20.4V以上あれば正常です。)

- 極性を間違えないよう、ご注意ください。



定期試験について

- この試験は受信機内の試験です。
- 定期試験の内容は、「火災受信回路試験」「電源試験(電池試験)」「登録データのチェック」です。
- 試験実行は、約168時間に1回実施し、試験結果が「不良」の場合、トラブル灯が点滅し液晶画面にトラブル表示します。(トラブル発生時の点検・処置については、「トラブル発生時の点検・処置」を参照してください。)

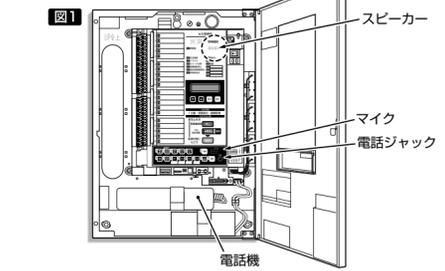
電話機(付属)の使い方

- 電話の呼び出しがない状態では、受信機の電話ジャックに電話機のプラグを差し込まないでください。差し込んだままだと電話音響が鳴動しません。
- この電話機(付属)では、消防署への通報はできません。

■火災状況の確認などの連絡ができます。

電話機(付属)の使い方

受信機と発信機間または受信機と副受信機間で、火災状況の確認など電話連絡ができます。



- 電話機は受信機内部に収納されているが(図1参照)、収納袋に収納され、受信機の近くに吊り下げられています。
- 電話機(付属)のプラグを、発信機または副受信機の電話ジャックに差し込みます。



- 受信機の電話音響が自動的に鳴り、電話の呼び出しを知らせてます。
- 電話灯が点滅します。

- 点検用スイッチカバーを開ける。

- 受信機音響停止スイッチを押すと、電話音響が停止して、相手側の電話音声が発信機のスピーカーから聞き取れます。



- 通話スイッチを押している間は、逆に受信機側の音声が発信機または副受信機に接続した電話で聞き取れるように切り替わります。

- 通話スイッチを押している間は、相手側の電話音声は聞こえません。(片方向通話 フッシュトーク)

別売の電話機をもう一台持っている場合

電話灯が点滅中に電話ジャックにもう一台の電話機のプラグを差し込んで、電話機どうして通話することができます。

- 電話ジャックに電話機のプラグを差し込むと電話音響は自動的に止まります。
- フッシュトーク中に電話ジャックに電話機のプラグを差し込むとフッシュトークは停止します。

発報/操作履歴の確認方法

- この操作は、過去の受信機動作・操作内容を確認するための操作です。
- 以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けてください。

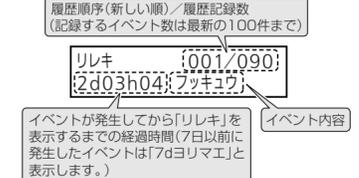
- トラブル・履歴確認スイッチを押す、続いて▼スイッチを押す、液晶表示部に「リレキ カクニン」を表示させてから実行スイッチを押す。**

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が点滅します。



- 液晶表示部に履歴内容を新しい物から表示します。(詳しくは「履歴表示内容」を参照してください。)

- 例 今から2日3時間4分前に復旧スイッチが操作された場合



- ▼スイッチを押すごとに履歴内容が変わります。**

- 火災発生時の履歴表示時は、発生回線の地区灯も点灯します。



- トラブル・履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。**

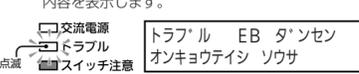
- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が消灯します。

トラブル確認の方法

- この操作はトラブル灯が点滅し、音声警報が鳴動したとき、トラブルの内容を確認するための操作です。
- 以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 トラブルが発生すると

- トラブル灯が点滅し、音声警報音(「ピー」トラブルが発生しました。)が鳴り、液晶表示部にトラブル内容を表示します。



2 受信機音響停止スイッチを押す。

- 音声警報が止まります。



トラブルが複数箇所発生している場合

- トラブル・履歴確認スイッチを押す、液晶表示部に「トラブル カクニン」を表示させてから実行スイッチを押す。**

- トラブル・履歴確認灯とスイッチ注意灯が点滅します。
- 液晶表示部上段に「トラブル01/n」(1番目のトラブル(n: 総発生数)、下段にトラブル内容を表示します。)



- ▼スイッチを押すたびに次のトラブル内容が変わります。**

3 「トラブル発生時の点検・処置」にしたがってトラブルを復旧させる。

- トラブルが復旧すれば、トラブル灯が消灯し、液晶表示部は「トラブル 00/00」になります。

履歴を消したい場合

- トラブル・履歴確認スイッチを押す、続いて▼スイッチを2回押し、液晶表示部に「リレキ クリア」を表示させてから実行スイッチを押す。**

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が点滅します。

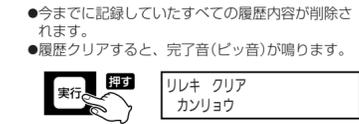


2 ▼スイッチを押す、「ハイ」に変更する。

- クリア OK? [ハイ]

3 実行スイッチを押す。

- 今までに記録していたすべての履歴内容が削除されます。
- 履歴クリアすると、完了音(ビップ)が鳴ります。



- トラブル・履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。**

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が消灯します。

液晶表示部(イベント内容)	履歴内容
L**タ*ンセン(**:回線番号)	該当回線の感知器配線(L**-*C)に断線トラブルが発生したことを示します。(※)
BT ハズレ	電池はずれが発生したことを示します。(※)
EB ダンセン	非常放送配線(EB+*EB-)に断線が発生したことを示します。(※)
データErr	受信機内部の回路電圧に異常が発生したことを示します。(※)
BL タンラク	地区音響配線(BC-BL+*Bn)に短絡が発生したことを示します。(※)
A タンラク	発信機応答線(A-C)に短絡が発生したことを示します。(※)
I タンラク	副受信機電源配線(I+*I-)に短絡が発生したことを示します。(※)
U タンラク	表示灯配線(U+*U-)に短絡が発生したことを示します。(※)
カイロ**Err(**:回線番号)	設定データの登録内容に異常が発生したことを示します。(※)
BTシケン NG	定期試験で、電池電圧に異常が発生したことを示します。(※)
データErr1	設定データの登録内容に異常が発生したことを示します。(※)
データErr2	使用回線の設定内容に異常が発生したことを示します。(※)
リレキ Err	発報・操作履歴内容に異常が発生したことを示します。(※)
メモリ	受信機内部のメモリーに異常が発生したことを示します。(※)
N**トラブル(**:01~04)	N**トラブル(N**-*NC: 諸警報回線をトラブル設定した場合)の入力があったことを示します。(※)
L**カサイ(**:回線番号)	該当回線の感知器回線の入力があったことを示します。
ハッソキ ON	発信機発報(A-C)入力があったことを示します。
L**ON/L**OFF (**:回線番号)	該当回線の警報回線(L**-*C)(感知器回線を警報回線で設定した場合)のON/OFFがあったことを示します。
N**ON/N**OFF (**:01~04)	該当回線の諸警報回線(N**-*NC)のON/OFFがあったことを示します。
L**チクセキ(**:回線番号)	該当回線(L**-*C)の火災入力により蓄積開始したことを示します。
ヘル チクシ	地区音響の自動解除時間(TA)が経過したことを示します。地区音響一時停止中に発信機、または第2報の火災発報が入り一時停止が解除されたことを示します。
ヘルカクタイ	地区音響の一斉鳴動移行時間(TC)が経過したことを示します。発信機、または第2報の火災発報が入り地区音響が一斉鳴動動作したことを示します。
ホウソウ ON/ホウソウ OFF	非常放送地区音響停止入力(EB+*EB-)のON/OFFがあったことを示します。
ACダ*ンセン	交流電源断(停電)が発生したことを示します。(※)
フクキョウ	復旧スイッチを押して、復旧したことを示します。
1ヘルON	ベル(地区音響)一時停止スイッチが押されたことを示します。
1ヘルOFF	ベル(地区音響)一時停止解除スイッチが押されたことを示します。
ベルテイシON/ベルテイシOFF	地区音響強制停止状態(ON)/停止解除(OFF)になったことを示します。
オトテイシON/オトテイシOFF	音響強制停止状態(ON)/停止解除(OFF)になったことを示します。
キドウ カイシ	受信機に電源が入り、動作開始したことを示します。

※: トラブルについては発生時の履歴のみで復旧時の履歴は記憶されません。

■トラブル発生時の点検・処置

液晶表示部の表示内容	点検	処置
L**タ*ンセン(**:回線番号)	感知器配線が断線していないか? 感知器配線に終端抵抗器が接続されているか? 指定外の終端抵抗器が接続されていないか? 終端抵抗設定が正しく設定されているか? 受信機のあき回線登録スイッチであき回線の再登録を行う。	配線を直す。 指定の終端抵抗器を接続する。 指定の終端抵抗器と交換する。 終端抵抗器設定を確認する。(詳しくは設定マニュアルを参照してください。)
BT ハズレ	電池が接続されているか? 電池ヒューズ(F3)(5A)が切れていないか?	受信機内の電池を接続する。 ヒューズ(F3)(5A)を交換する。
EB ダンセン	非常放送地区音響停止端子(EB+*EB-)の配線が断線していないか? 非常放送地区音響停止端子(EB+*EB-)を使用していない場合、終端抵抗器が接続されているか?	配線を直す。 非常放送地区音響停止端子に指定の終端抵抗器(10kΩ)を接続する。
データErr	交流電源スイッチが「切(OFF)」側の状態で電池の電圧が低下していないか?	受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。
ドウサフノウ	停電などにより受信機の交流電源が切れていないか? 副受信機電源(I+*I-)が20.4V以上あるか? 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか?	停電状態が復電するまで待つ。 受信機内部の電源回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
カイロ**Err(**:回線番号)	交流電源スイッチが「切(OFF)」側の状態で電池の電圧が低下していないか? 停電などにより受信機の交流電源が切れていないか? 副受信機電源(I+*I-)が20.4V以上あるか? 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか?	受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 停電状態が復電するまで待つ。 受信機内部の電源回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
BTシケン NG	一斉試験を行い、火災表示試験項目で全回線点灯するか? または、該当回線の火災試験を行い、正常に火災状態になるか?	受信機内部の火災受信回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
データErr1		新しい電池と交換し、再度電池試験を行い、結果が「良」になることを確認してください。(新しい電池に交換しても、再度電池試験をしないと「BT シケン NG」の表示は消えません。)
データErr2		ソフト登録データ異常です。ソフト設定を再度行ってください。それでも復旧しない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
メモリ Err		使用回線の登録データ異常です。あき回線登録を再度行ってください。それでも復旧しない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
N**トラブル(**:01~04)	諸警報入力端子(Nn-NC)が短絡していないか? 諸警報入力端子(Nn-NC)に接続されている機器が出力していないか?	内部メモリー異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。 配線を直す。
BL タンラク	地区音響配線(BL+*Bn-BC)が短絡していないか?	配線を直して、地区音響一斉鳴動操作を行い、短絡が発生しないことを確認する。
A タンラク	発信機応答線(A-C)が短絡していないか?	配線を直して、発信機発報を動作させて、短絡が発生しないことを確認する。
I タンラク	副受信機電源配線(I+*I-)が短絡していないか?	配線を直して約1分間待つ。
U タンラク	表示灯配線(U+*U-)が短絡していないか?	配線を直して約1分間待つ。

試験中に火災を受信した場合
試験中の回線が火災を受信した場合、[E]の操作のあとに火災警報します。